

令和6～7年産 スモモ(花螺李)栽培暦

令和6年3月作成

計画的な改植と適期管理で連年安定多収を実現させよう！

摘果の徹底（3月～4月）で大玉果実を生産しよう！

月	旬	生育相	栽培管理		防除方法	
			作業項目	実施方法	対象病害虫	防除薬剤・希釈倍数
3	上中下	果実肥大期 新梢伸長期	粗摘果	開花後30日から摘果を開始する。 1果そうに1果残し、果実肥大を促進する。	カイガラムシ類 幼虫	アプロード水和剤 1,000倍
4	上中下		摘果 草生管理 鳥害対策 仕上げ摘果	小玉・病害果・傷果を摘果する。 草生管理を徹底する 鳥害を防ぐために、防鳥網を効果的に利用し、対策を行う。 最終摘果は開花後70日までに終える。	シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類	フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 トランスフォームフロアブル 1,000倍
5	上中下	成熟期	新梢管理	伸ばすべき新梢以外の直立枝は、 捻枝・摘心を行い、混んだ枝のみ 除去する。	シンクイムシ類	フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 または ディアナWDG 5,000倍
6	上中下	花芽分化期	収穫・出荷 施肥 改植準備	収穫は7分着色で収穫し、家庭選 果を徹底して厳選出荷する。 夏肥（礼肥）を施用する。 改植予定園は伐採・伐根し、緑肥 を播種する。		
7	上中下		夏季せん定 枝梢管理 草生管理 施肥	伸長の旺盛な枝は、捻枝や摘心 を行い、側枝の利用を心がける。 草生園は刈り取り、敷草をする。 夏肥（2回目）を施用する。		
8	上中下	新梢伸長期 樹勢回復期	台風対策	台風に備えて支柱の準備と排水溝 の整備、土壌流出対策を行う。	【台風前】 黒斑病	ムッシュボルドーDF 500倍
9	上中下		改植準備	改植予定園には、堆肥を施用し、 深耕を行い、土壌改良する。		
10	上中下		土壌改良	苦土石灰を施用する（アルカリ土 壌では施用しない）。 堆肥施用、深耕で土壌改良をする。		
11	上中下		防風垣整備	高く伸びた防風垣を切り下げる。	黒斑病	ムッシュボルドーDF 500倍
12	上中下	落葉期 休眠期	間伐 改植 整枝せん定 誘引	密植園は間伐を行い、果実品質向 上と作業の効率化を図る。 交差枝・徒長枝は除き、誘引を行 い、開心自然形の樹形に整える。 切り口には、ゆ合剤を塗布する。	(ゆ合促進) (ゆ合促進) カイガラムシ類 (1月萌芽前まで)	(トップジンMペースト) (1回) (トップジンMペースト) (1回) スプレーオイル(マシン油97%) 30倍
1	上中下	休眠期	整枝せん定 誘引	交差枝・徒長枝は除き、誘引を行 い、開心自然形の樹形に整える。 切り口には、ゆ合剤を塗布する。	黒斑病	ムッシュボルドーDF 500倍 ※2月上旬の開花期までに散 布をすませる
2	上中下	萌芽期 開花期 展葉期 落弁期	施肥 液肥の葉面 散布	春肥を施用する。 展葉期に、尿素500倍の葉面散布 を4～5日おきに3回実施する。		

令和6年3月19日現在の登録内容を記載。

基幹防除…発生を抑えるため、できるだけ防除に努めましょう。
補完防除…発生状況を見ながら、必要に応じて防除しましょう。

<施肥基準：10a当たり施肥量>

時期	6月 (収穫直後：夏肥)	7月下旬 (夏肥2回目)	2月上旬 (春肥)
肥料名	燐硝安加里 (S226) または あまみオール14 (14-14-14)	奄美果樹配合 (8-8-5) または 蜜のめぐみ2号 (8-3-3)	
収量			
500kg	20kg	50kg	50kg
1,000kg	20kg	60kg	60kg
1,500kg	40kg	70kg	70kg

<農薬の溶かし方早見表> (薬量はℓ、gまたはcc)

水量 (単位)	倍率				
	30倍	500倍	1,000倍	1,500倍	2,000倍
500ℓ	16.6	1,000	500	333	250
300ℓ	10.0	600	300	200	150
200ℓ	6.6	400	200	133	100
100ℓ	3.3	200	100	66	50

<農薬安全使用基準>

対象病害虫名	農薬名	希釈倍率	使用時期 (収穫まで日数)	使用回数 (回以内)
黒斑病	アグリマイシン100	1,500倍	30日	2回
黒斑病、かいよう病	ムッシュボルドーDF	500倍	発芽前まで	—
アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	7日	2回
カイガラムシ類幼虫	アプロード水和剤	1,000倍	14日	2回
カイガラムシ類	スプレーオイル	20～50倍	発芽前	—
シンクイムシ類	ディアナWDG	5,000倍	前日	2回
	スカウトフロアブル	2,000倍	前日	3回
	フェニックス顆粒水溶剤	4,000倍	前日	2回

農薬の飛散防止対策について

- 隣接農作物の栽培者に対して、散布予定の農薬の種類や散布時期について、事前に連絡する。
- 散布は無風または風が弱い時に行い、風向、散布ノズルの向きに注意する。
- 使用した農薬の名称、使用濃度、使用量、散

鹿児島県園芸振興協議会大島支部

連絡先

大島支庁農林水産部農政普及課：0997-57-7274

同 瀬戸内町駐在：0997-72-0184